

科目名:教職概論(必修2単位)		担当教員:武内裕明/担当形態:単独(講義)	使用テキスト:北太郎書房:保育者論(新版)
科目	教育の基礎的理解に関する科目	施行規則に定める科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)
<p>授業の到達目標及びテーマ:</p> <p>教育の動向を踏まえ、学校教育や教職の社会的意義と教員の役割を理解する</p> <p>保育者の職務内容や責任を知り、専門職として成長していくための学びの基盤を築く</p>			
<p>授業の概要:</p> <p>教職としての保育者の意義や役割を知るとともに、教職を自覚的に選択し、自ら成長していける基盤になる情報を提供するとともに、学校教育や保育者の社会的意義を理解し、教職に就くために自ら考え、改善していける基盤を築く。</p>			
回	項目	内 容	
1	オリエンテーション	冒頭で講義の概要を説明する。他の職業との比較を通して教職の特徴をグループワークで考えるなかで、公教育の役割やその担い手としての教職の社会的意義について学ぶ。	
2	保育者に求められる資質	保育者に求められる役割や保育者に必要な資質に関する資料を通じた検討を通じて、教職や保育者に求められる資質がどのようなものであるかに関して理解を深める。	
3	子どもが育つ環境と保育施設	子どもが育つ環境の変化や、幼稚園・保育所・認定こども園その他の保育施設の役割を学ぶことを通じて、今日の保育者に求められる資質・能力を検討する。	
4	保育者の専門性	保育者の役割のうち保護者の子育てを支える役割について具体的に検討するとともに、保育者としての専門性や倫理とその向上の方法を理解する。	
5	子どもの発達と保育者	保育者として子どもの発達を支えるとはどのようなことかについて、子どもの自由と放任との違いを検討するなかで、基礎的な理解をえる。	
6	保育内容の変遷と指導	保育内容のこれまでの変遷を学ぶなかで、保育者に求められる役割がどのように変わったかを知る。また、保育の実践に必要な計画や指導の技術について概観し、チームとして諸課題に対応するための基礎的知識を学ぶ。	
7	特別なニーズへの対応	子どもたちの特別なニーズに応える必要性や、専門家と連携して特別なニーズに対応する意義や方法について理解する。	
8	子育ての課題と教職	今日の子育てに関する課題を把握することで、保育職が果たすべき責務を自覚し、保育者に求められる役割や資質について考える。	
9	親の現状と子育て支援	家庭での子育てやそれを支援する現状を理解することで、保育者として適切に保護者支援できるための基礎的な資質を磨く。	
10	保育者の保護者支援	保育者に必要な保護者との連携・協力に向けて、保護者への対応や関係づくりの意義・方法について知る。	
11	保護者の権利とその代弁	子どもの最善の利益のために、保護者の権利を擁護していく責務があることを理解すると共に、そのために必要な保護者の権利についての知識を得る。	
12	地域の中の保育者と園	地域社会のなかでの保育施設や保育者の役割を知るために、地域の子育てやその支援の現状や、他職種との連携の必要性を学ぶ。	
13	保育者集団と職場環境づくり	保育職の職能発達や協業のあり方について学ぶと共に、労働環境や保育実践、専門的力をよりよいものにしていくための保育者の権利を理解する。	
14	保育者としてのキャリア形成と学び	専門職として職務を遂行するために、学生時代から現職教育まで、生涯にわたって学び続ける必要があることを、保育者の義務や学びを支える制度の存在も含めて理解する。	

15	保育の評価と義務	保育を改善させるための評価や学習の営みを学ぶことを通して、教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障の意義について理解する。
	期末試験	
<p>参考書・参考資料等： 幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針、幼稚園教育要領 基礎学力研究開発センター『日本の教育と基礎学力』明石書店、2006 垣内国光他編著『保育に生きる人々』ミネルヴァ書房、2011</p>		
<p>学生に対する評価方法： 期末試験（40%）、平常評価（60%）によって総合的に評価する。</p>		